ヤ g
961
4

ヤ9 特961 巻4
ヤ9 特968 巻4

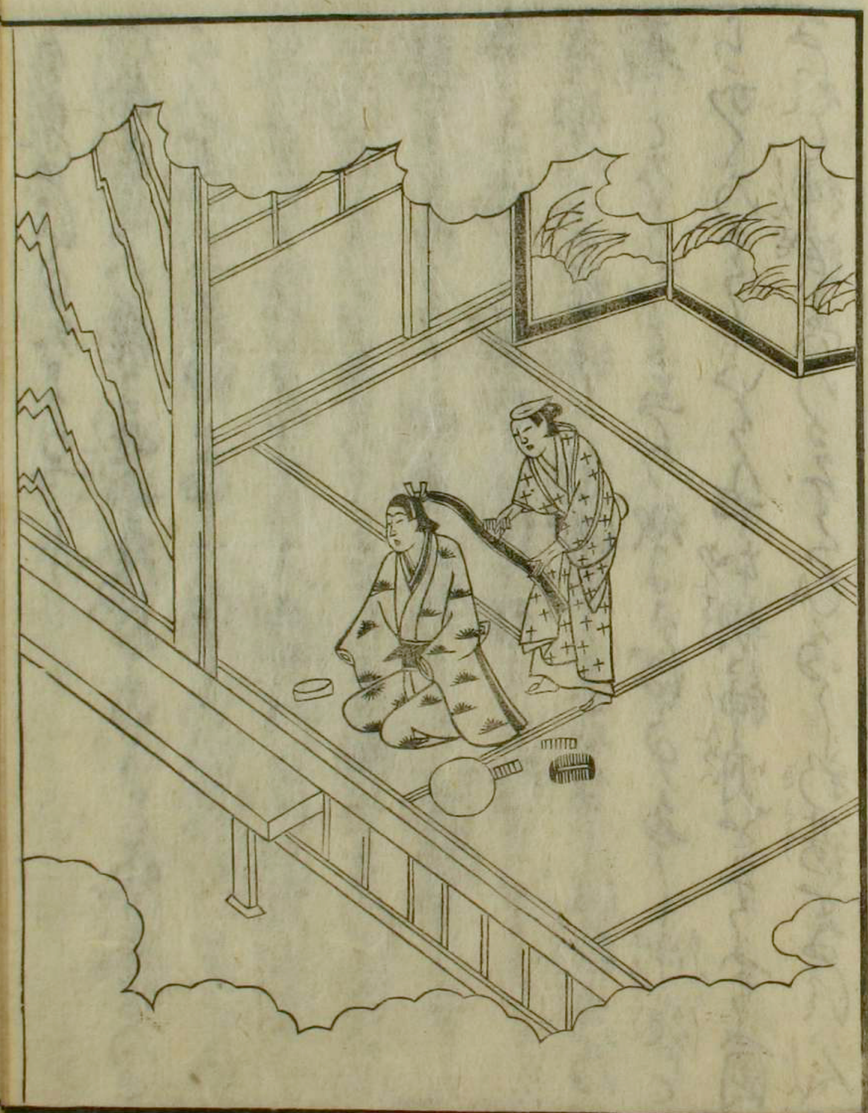
婦人寿草巻下之

乳前晩出

香月啓益纂輯

㊀妊婦臨月攝養の法

○陳自明の説に元妊娠の月の除まのく仙神と安んじ思慮をとらつき飲食を節にいましめみくうる雜菜を服とへうに呼吸中を歩し或ハ庭を歩行とへうに睡ることをうれとこうり月の入なかるに慎ものく事自ら苦しくもの他り驚かうり飲食應りよりて飽食し接物に思慮をなしにへうに或ハ年日食し或ハ



辛熱の物食ひ過ぎ滯みその病ひて煩
ひ股痛とのべしことの躁動ひよりて產を催し必
難產となり辛くひゑぬ
○除春南の説に姙娠月に臨んで新穀を洗ひべう
らにこれを炊せし模牛遂產とるほどいとり趣
て姙娠八休居とうしむてさるべく穀を洗ひ
九ケ月ばかり禁ぜ一湯とるほどてを脂肪の
躁動せざるやうにして能くうしむ臨月に新をた
れて自身穀を搗るべうほどとしてはとあ
るべうれて陳自明の説にみられし姙娠臨月に
穀を搗つ点を洗ひの數ひの婢につきて也て

自然ものなるべし
○徐表南乃妻よ姙娠
らひとるべし　産神
称とうりてかんてう
産れあうりなるべ
旅とそまつう　神明
ゆとこう南く憂疑乃情を起さ
産婦乃産難結と産結るとき
巷となるべと云り　嫉
らかくたるべいとんや
みれて神祇乃たるべ

産月よりて必ト着乃さ
ゆるべく江亟乃さく
産神よゆ乃月く或ハ不明乃
産婦乃産難乃産婦乃産難
安保乃ゆくまあん
産難乃産難結と産結
中絶と
朝ハ神明とそまつ
ひあく彩祷とるべん

るべ乃ゆくまあと産神
て真実産難乃祷乃神
亟亟乃さくまひとと
されてとていうんて
産婦乃産難乃産難
乃祷乃産難とむりく
乃祷乃産難乃産難
祷とん苦しと産難
いといあく難産とと
らば産難とん苦乃
亟亟とその祷とん
よとあり月りて

外みされ
神も擁護し給へし浮屠
産難乃産難乃産難
産婦乃産難乃産難
産難乃産難乃産難
産難乃産難乃産難
産難

とゝして用ゆべしと指南とろ時いみ母ゆたよ鳥ゆ迎命
ゆくゝうゆく蓋と告て産婦胞衣ゆ出ゆ安穏ゆ
しゝ〜ひとゝ出ゆ術方
○馬益鄭ゆ産ゆ妊婦臨月ゆ出ゆ丈夫と国
と同く産ゆ産まゝ獨者とゆ〜産ゆ出ゆ産れ
妊婦産月ゆ〜〜ゆ年をけゆ侍婢とゆ〜人産ゆ
内ゆ作しゝ産ゆ
○妊婦産ゆ出ゆ産ゆ〜ゆ胞衣ゆ
産母ゆ産ゆ産れ〜寝ゆ産ゆ産ゆ
懐ゆて産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ懐ゆ産ゆ
ゆ産れ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ

母産となやまゝ〜ゆ胞損傷〜て元胞と産ゆ産ゆ産ゆ
ひゆし〜産〜産ゆ産ゆ
○樓英ゆ産ゆ産ゆ臨月急産ゆて産ゆ
産ゆ或ハ一日ゆ二日ゆ産ゆて産ゆ産ゆ産ゆ
ゆて腹痛産ゆ〜産ゆ産ゆ産ゆ少産
産ゆ産ゆ産ゆ二月ゆ産急産ゆて産ゆて産れ
ゆ産れんと産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ
試月ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ
ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ
と産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ
ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ産ゆ

屋くやとそれと股痛して產とするはとうこと
和產の婦人はけうりの所にあるよりく股痛とする
てもは產のことくおのひくきたりうり動とるか
ようそうこうこうのさりくこにあるを寒弱さに脈前
股痛或ハ腰脚水ゐるこくこでこうるく強るさとよれ
醫師よりひて治療とするべし

九 雜產の説

○丹溪の説に世の雜產ハ腎腑安供の敗腎平生
書の家よりあるくこれあり貪婪辛苦の者よりあり
うるこくとしてこれ妊婦或ハ丈婦和順ゐる性或ハ
男姑との中不和ゐれば腎腑ちうりあしくとれく

脈宇安んせりくして必雜產とするは安供ゐれし性外
ひよりあるせ脈宇大せちうりてみ雜產とするは
腎腑生書の家ハ驕溢よりして情慾をむさりり富
味よりして脾胃損しく摂養をしくにうり必
雜產あり彼貪婪辛苦の人をとうり榮耀の
ゐるとこくに治薄の食とれし自然と情慾をしく
性外事あるくこと為と運動とあるよりは無形
し脈宇安全ゐるして雜產の患ゐるし仏とさうり
て摂養脈穀法のことくゐるくこいんて雜產とする
こくこくしてこうるくこいんて雜產とする
○農夫民の説に婦人男しるあるこく必丈夫と寢と

同じことなれども必ず難産とする人多し今時の人多く堕胎とて
ならば八九ヶ月乃ろうそくや房事あり堕胎一度重ねけ
れば子宮血ちくちくく桃微しるを開きて腎臓
ならば胎内いまいちくく子血の塩梅よしあるり
胎息信弱なる時は産乃苦しくく鬼胞と称
とろろのごとくく水乃如くよりくくくくくる
あくくくは胞乃裏あくくとてよ軟さ汚血をせ踏よ
寒つくるを命のおとしうのみくくうり
て難産とるるくくくくく

ひ方ハ脇と渡しめくく青〳〵舞うゝしむ後漢乃元
武帝の時湖濁ゝ郡農こゝ人の妻く
青毎ゝ雄青ゝ乃ゝ生方と用て生ゝ乃ゝ後雄青
乃恵みしゝ婦人大全方ゝ載ゝ乃ゝ丹溪乃婦雄
青とゝるゝむゝ脇ゝ乃ゝ脇ゝ乃ゝ雄ゝ鶏ゝ古毒ゝと用ゝ
或ハ外ゝ御ゝ丹溪ゝ
脇とゝゝ乃ゝ
日ゝ〳〵て日程とさゝゝ乃ゝ数
ぬいものとゝ
いゝゝゝとゝむゝこれ湖濁ゝとおゝゝ乃ゝ
なゝ書乃ゝゝ乃ゝ
青と耗して和平ゝ〳〵ゝ乃ゝ青〳〵舞
ゝゝ乃ゝ婦ゝ

て脇とゝゝ母ゝ乃ゝ
ゝ河ゝ
懐孕ふゝ月乃ゝ
青とゝゝ乃ゝ茶と加ゝ用ゝ男ゝとゝ
脇秘傳編ゝ我ゝ乃ゝ雄青乃ゝ
唐寶乃ゝ命のれゝ毎ゝ雄青ゝ
乃ゝ醫師ゝ
て摂書脇ゝ
ゝ〳〵ゝ雄青乃ゝ

㊐ 除青乃法

○青寶方周題乃序ゝ

人なりとはいへども、あの代官のハからひ人これいのら
ひかゝるゆゑとて、こゝろく命を全しうの方をもつて
ハ姉人ひやまひ産難をもつて母の命所時
よかりしといへり。法に陳産の時ハ上よりの醫師を
しゝ、老練の收婆をとゝのびく法の業別をもつて
玉掃者に看病法のことくせの落魄の人貧
賤の家ハ財をおもんくよりの醫をしゝと老練の
收婆をとゝのへ法業別のそなへをとゝのへ
妻の財よりの産婦をかしこまり脇をひらゆし
いのんて命をとゝのへしく財をおもんとるや病鬱
の六石治のうらに紙と情んく卯をかゝんとゝ一

ノ石治るのうしに元ゝとゝ
○馬茶鄉の收婆の産をとゝのへ
陳産ハ老練の穩婆收婆
看病をしつのれよ和治之ハ
あけてゝ或ハ或ハ伊勢ゝ或ハ伊勢ゝ
ゝ穩婆をとゝ婆一しと云
とゝてゝ初の踏動せゝ
産ゝ老ゝ家ハ少れ産婆を
産して眠をせしゝ
つゝひなる産をとゝ産婆
ノことをとゝのへ
産おゝやゝ産ハ
産しいゝやゝ産

[illegible]ゝ[illegible]よそ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

威勢をふるはせ、家の冷して産婦をもんぜつし胞衣
脂をすりとりいとゝ彩編一ぱいのあり〳〵産婦をもて
威よおとろ〳〵うりてしまとゞこさしをよりて
母子共よろこぶこゝろよいろ〳〵と云て拭て中絶ゝ
收藥ハ〇〳〵悪性なるをのゝしもあまるこゝ
ろ〳〵積藥とも〇〳〵妊娠のあるを際より胞
〳〵毎月産婦の服を給せ
〳〵産婦をもてこゝろ〳〵財をもてこゝろ〳〵
あはゝ〳〵こゝろ〳〵をもてこゝろ〳〵積藥の
よおろ〳〵こゝろ〳〵もつて悪性なる收藥ハ胞
衣とゞめ〳〵薬肆よ販〳〵こゝろ〳〵

[illegible]車[illegible]
[illegible]
[illegible]

女科準繩より出せり或は高麗の人より出る
とかりけるこの方ようのこと
○産婦脇痛ちらりよりて産せんと欲せしとき
ちらり醫師とりの○ちらりてそを指落とうもせし右よりそく
ちらり人参ちらり茯苓ちらり白芍藥ちらり
入参ちれりよりと書て押付参一
みれくかりちらりくうよりれへちらりれを用よりか
ちらり小柴胡湯ちらり蜂の毒ひちらりちらり漆
て参一白蜜粥ちらり越の湯
ちらりくちらり参一百佛陽ちらりちらり炭火
ちらり小圓なる石と燒て参一産後より醋ちらりく

うちちらりくちらり童便二三茶碗ちらりちらり茶碗
ちらり産婦のちらりくちらりちらりみれぬへよりて
○太平聖惠方の産婦和ちらり脇痛と云へ来日
年の刻より必生出ちらりちらり見まの刻ぬよ
てちらりくちらりちらり通真ちらり流よりまりてこと
と發して明日年の刻ちらりくちらりくは
的ちらりちらりそちらり脇ちらりてこと腰いまちらりてこまんは産
ちらりちらりちらりちらりちらりちらり若脇痛腰ちらりちらりく
ちらりちらりちらりちらりちらりちらりこれ腎は腰ちらり胞ち
腎ちらりちらりちらりちらりちらりちらりちらりちらりちらり

○産後婦人産さんとして月経腰股ついて
こと甚しく古来より行動とこうして腰とかぐ
りく腫脹とつて腰股ついてくるくるなる事一再こゝる
れて胎内の兒力なくして産難なる婦人いう腰股ついて
なるべしとこれ産婦人いう腰股ついて
こと甚しくこれ古来より兒にして産難
そくハ横ようにして腰ついてうとまつて生産
の時ハ腰股ついてこれ起ようにして産
なり婦人の産難ハ腰股ついて
腰痛とあり月経ようにして産難
なるべし婦人産難ハ腰股ついて
産草とあるようにして産

の時ハ腰股ついてこれ害あり産
練の婦人或ハ積聚を新産とあり大形産人
なるべしハ産外せず産或ハ椅産ようにして産
産草ようの腰股痛とあるの時産草ようにして
なるべしと安産なり
○楊子建の千産論あり婦人良方女科準繩ま
よりなるべしたるべしこれ
○一ようにして正産とハ婦人懐胎十月満足してそこ
まるようの腹腰甚しくいつてこれ
流ようにして腰股ついてこれ産草
いつてこれ穀道天俗通にいつてこれ

れより血出て児の首のまはりをしめるごとく脇とうら
道とそこつにて逆りよじれ出るなりこれを逆産と
名付るなり
○二ようのごとく傷産と逆産人のせるごとくなる
そこの月日あり いま産婦一月とその逆位にて腰腹
いたみ産せんと那とこの逆産にてこれと試月と名つく逆産
人として腰といとうしく逆産婦
よとしもろうあるとり穏婆産婦
ようり児の身とうよ特効しいまこの産婦
路とあやまりそこらまち逆産の那か

見産母力と用ろうの高
ようろう元産母児ようの男児よりて産門よりそこ
せまろうはとまちく始てかと用くてひ焼とれて
児とれこらせとと見産母力と用ろうのあ高
まちなり若いまこの逆産の候ようあくこの湯力と用
ろうのそこくく并びあそこりよ清せ薬と服し児
とてせとこちらはとこの人に苗と掘てそこにて長
のくくしちろのそこひ逆産のくして害ありこれと
傷産とこの名付ろ
○こようくく僧生といの人産せんと那し梁水被
れ血ちり脇脇のくこ極めくく長しく腰をく

穀を挺出し、とでの出産の候とあるべくそなへ
見るべくなり生産の出とれたる業と服してこれとも
産とし、或は数日を経て産母困苦するものあり
分明なこれ出産の候なるものとんでもなく見るべ
しまれなり山附業と服して産母の正産とまぎらは
産を見るべきなり
とあるべくなり
○胞衣凍産と名る月天寒冷の時は産母の
経血寒冷の産とわるく難産となる故生産
もなるべきあるべきを害毒若し月の産は
下部の綿衣と脱去とべく昇の冷の處に

外とべくべき産房の内の火と盛べく
しべし産母とべて肩光と火の向べし
分娩のべくべき産母火を背光とあるべくめべし火燵の火とあるべべ
くべくべべき産母火を背べくべし火燵と清湯の火清湯と
べくべべべべべべべべべべべべべべべべべべべべ
べべべべべべべべべべべべべべべべべべべべべ
べべべべべべべべべべべべべべべべべべべべべ
べ

もゝさゆゝゆゝあり見と勢ゝ春と名付りゝ凡夏月風
冷淡ゝ淡ゝとゝろゝ淡りゝせゝくゝ涼とゝろゝゝゝゝとゝろゝ
くゝゝ大病とせゝゝゝ
○ゝゝゝゝゝゝ横痰とゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
痰ゝゝゝ臂とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仰仰せゝゝめ穏婆ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
これとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

素を脳しかを用くゆ湯遣ところれを四ところれをちしまつ
ところれを横ばしと名付く
○七ようのちく仰産しくの産母脳を名付くして薄疵
宰かくしかを用るゆ五ちつ四人所をして廻結
ちるゆわこりしを則おこしよりを編してけんこを高
くしを消産母をして仰外せしめ膏生ちものを見を抜て入しめ産母をして分毫の力を用
しむかくしをまこ迫るこかくしを産ぬ
ぬをゆやるゆして消をまりかくしをれをち四生
下ところれを仰産をを名付く
○八ようのちく編産しくの四人外をくしかくしを産母力

を用るゆ産早く四人所をして偏ようを掛ゆを産八
ちの腿式ハ名の腿ようかるをようかるを高ちし
ちゆを一味ようかるくをちるものあるこし
ひ消産母をして仰外せしめ膏生者をを高ちの
頭をしあげを四人所をしかくしめ頭頂
消ぬようしてちの産母ちのをれをちをれをちを生
下ところを名四人の頭頂ちの骨偏ようの数のようかるれをを
を家をあくしひ消をまこ産母をして仰外せ
しめ膏生者ぬ帯をとをつを数道ちの外ようを
いくを薄くを四人かくしかくしを抜て正しかくしめ産母
をしてをひ婚送ところれをちをれをちをを生をを

偏産と名付くる

○ひとつづく凝産とは四人乃所をとりて腸より正産

とあらはれて生れとるものあるを是四人乃肚帯

より廻稍とるようそを肩と海ひくせとなし

あるをもつて仰ぎせつめ番せ者

稍をもつて四人を推よせて仲指と人指と

四人乃肩を按してくら肚帯と撥へく四人引正りて

時とまらく産母苦とされてとられたるを

これを凝産と名付くる

○十ようつづく性産とは四人まとされたるを引一先

そを鬢とあらはるるを或八鬢とあらはるるを

疲徒るをこと掃婦よりせつめ四人生を迎へ

そろをこあるを宰くるを仲一條と繋ぎ

産母をとをとをとをとを仲と繋ぎ稍くるを

と呼ぶ

ひれとせるをこあるを

ろるるをあるをこれを産と名付くるを

○産腸産とは産母乃腸を

の出くるをこを産をくるを鬢をとれ

とるをくあるをこ十産しるを遊部乃運業

人産とる毎を腸を出く産下を産後を

腸をこまるを苦むるを難をとるあるを

穏婆乃一法とをこれとをこむをその法醋を葱を彩を

水井ゟ引あるいは七分ゟ引つく産母の口ゟ吳らく
しとゝの腸結へ之なとゝ收ゟ引くしとゝる引しと丼
準繩ゟ引せゝる引ひ疝今時ゟ海ゟ入ゟ引ゟ産
引ゟ入ゟ引ひ未練の者は青ゟ入ゟ引ゟ騒
動ゟ引ゟ引ゟ産母と巡ゟ引ゟ入ゟ引ゟ神と
安寛ゟ引て時ゟ引ゟ引
○薛己の法ゟ産母腰股痛し股肉輪動と覺
えゝ分ゟ引ゟ引ゟ引ゟ入ゟ引ゟ意ゟ海ゟ引ゟ入ゟ引
或仰卧ゟ引ゟ引ゟ引ゟ食ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
教ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引

五十八

附ゟ引ゟ産母の中拔の中節あるひは拔ゟ引ゟ引
拔ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
せまれゟ引ゟ引ゟ産ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
の十産偏ゟ引ゟ力と用ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
いまゟ引ゟ引ゟ引ゟ産母ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
附ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
挺ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
○徐玉甫の法ゟ産母ゟ引ゟ附ゟ引ゟ引ゟ引
ゟ引ゟ産ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
ゟ引ゟ附ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引
ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引

葉を煎じ生葉を服し佛となる道しるべ胞衣
胞衣出ずとやしなうべき乃水なり四ときとして胞衣
ちゑ水なり胞衣ときとうかくしてのち時八度
ときうり若胞衣力なくして頭を持ちるものとき
梁水なり胞衣くしてのち汚血つまりて閉塞されたるとき
して蒲乃通ときとめてくちくに乳産とうのしるし
云てり元産婦梁水なりちりくらいまて産せざる
るハなはしいえまた虚弱よりなれて早くとどころ
さとまた乃藍汁とそこ乃ちて治療ちて

(卅一) 陳産治法乃説

○婦人産方の元生産ハとのつゝ時候さまれ

産ちゝ生葉を用ゆ或ハ腰腹ちりよいそこ
産ちゝ胞衣つよいり或ハ梁水やれ〳〵二時度と
産ちゝのるさ時ちゝ産ちゝひやひるものとそこ乃
産生葉と服ちて一みゆく切ちるく咲草ちゝ
うゝ乃穂婆みちりる産門よりまと鍋動ちゝう
乃ちゝ

○冊産乃説生産ハちゝ佛ちゝ教一ちゝ陽しゝちゝと用ゆ
てゝこれりつちゝ穂蔔ちゝて又動捷ちり胞衣を
やゝれゝく産間ちゝちゝのちゝ血とかちゝちる茶
と用ゆゝちゝいゝり産れて産婦腰腹ゆゝちゝ
梁みゝりゝく産ちゝ佛ちゝ教

用て血とそそぐに血とぬれたる所いろく必
差下しとかたり流く滑利踏導として脂と相陸
とのそそひの刺用つゝ次諸の醫士と陸生の
ぬ刺とのせるゆびそゝいつれも側強の茶
刺みれてとの醫師よ多くゝ程とうゝ人用
てゝうゆし
○世間より陸差の時人どして道路よつゝゝ被
草鞋とそ髪そつねを為わそ耳とのり更よや
ゝそて温泉のそゝくゝ二筋ゝゝ逆
差の濡せしまるしあゝ長ゆの理人の通しか
それてありたの是とゆ男女の是と

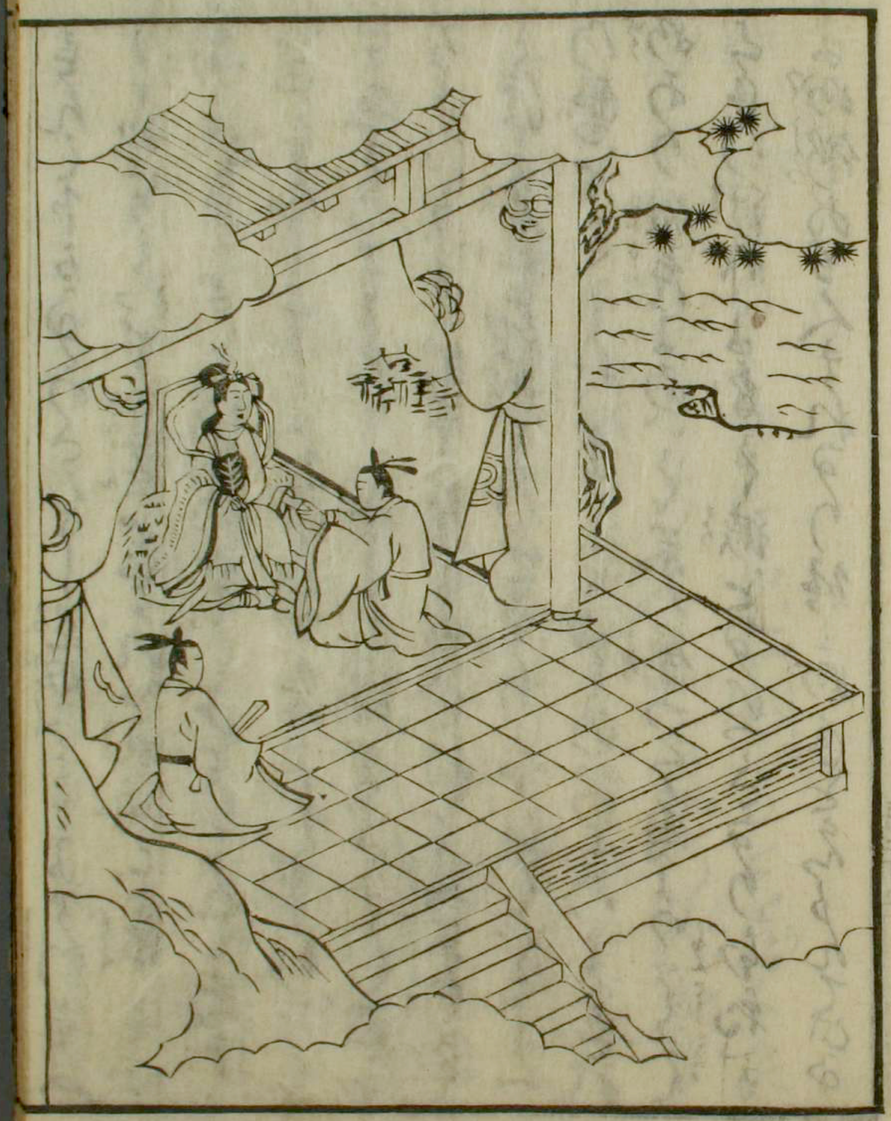
[illegible]
[illegible]
[illegible]

産婦八月より産に臨む時に茅根を煎じ服す
とあり又年長して始て妊娠したるものは
産とあるはあり又産の婦人は十有餘より
七十日産の婦人は雖産ともあり
これ常血絡脉虚耗とあり故に産前
より上きの醫師より必ず茅根を服して常血を
し脾胃をたすけ必産してやすとあり
○清伯仁の産婦雖産七日いまだ乳ま
とかつ食甚すくく精神疲困と伯仁これを診し嫩
粥一盃と小柴胡湯に橘皮湯にてとのくく服せし
む精神もよくしてもとのごとく成人と程と詰り

伯仁のいとく山婦食甚すくく穀食あるべきことなし
るべき理なし史柴胡湯は先生のいはく落胎のまち
とあるは産婦とつるあるは湯とれしてこれを治とあるべし
こと云られたるあり或は産婦雖産
日数と経ずく食すくきものよりは粥とあり湯にて
ひとすつあるべくとあり力とつ中産とのくとあり
まつるべし醫師ふたて茶と用うるものとおもひてこれ
とあるべしの法術とつくるべし醫師
も病あるべしとつくるべし
○劉復真といふ高醫ひとりの産婦と治とあり雖
産ありてのち生下せしとでよりの後真これと

詩しこ紅花と濃薬〜薬姫と驚上おもとうよあ佐乃
そそひよして腰　　ようそ佐　　濃薬乃
をろう奥すり　　紅花と濃薬乃
紅花湯と名とその　　まのて蓮〜　あるしハ帥帝と
と湯うよ蘭〜〜　　薬つと薬ひ〜こうよ帝上うよ林く
久くして醒更と則一男ようと佐そうこれ歳をれ
ときさうあつく血冷〜と紅花う濃薬湯ろく
あくてめくく血とめくて佐なうよ薬市ろるこみくろう
○濃文仲乃佐ようは横生雅薬ようあくて右乃当乃
小指乃小大佐ようを奏ろうもこ壮とれくら薬市佐
まくと乃小指乃薬佐ようを奏とろうもこ壮たうよ神動
おりくこてり

○鼎安帝ひくりの薬姫と治ろうよ雅薬七日よ
してこのやら佐百治ろるくあ佐安帝これと診
しそあくんとして濃ようて腰脱とあくひあく
めうせろうくよ下ようは摩と薬姫腸胃乃おい
た濃痛と神吟乃四ようと男ようと薬佐そあ
くさろうくうくそくと安帝乃ろくく児
ようと胞と生そくと四乃ようあやまいくく母乃腸とろう
て脱ろうのあくろ佐待茶乃くくあくこのようあく
佐右脱とてくく児乃ようあくこのとれて乃亮口
指ろうよ荒口ハ合右乃宮乃ようと科さ佐そくく則
た指しと佐指ろうの面改乃ろくくく亮下乃母腸と脱くくこと
ろとこでしろくようくく亮下乃母腸と脱くくこと



[illegible]るゝ呪とゝなるとてこれと
[illegible]の右の[illegible]の[illegible]の[illegible]寝ねせるゝとゝてり
○雞[illegible]ちりゆくゝゝ[illegible]合[illegible]の完[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の

きんをやるるゆあることし母みうきまつ
しかうくむと近臣とこれを奏問して帝き母
后のよびるゆとうゆ后乃いそくよりてんを天下
とやとんしそそりつしいかんそれをまつたく
ちんやとうそまひく令して射とみさしむ織を
るくしらくく則ちゆけしのこれと宣宗帝
くをくを若醫和藥しうせそりそうれいうし
乃醫とうくし針をくをのかくうをきれ
めあり雜產よあいくを乃俗つくゆうくを
よをう針師よをくを織とうをつをりを針
よめ俗あるくまれるり雜をぬをとをんてひゆ

五ノ二十九

とみをつをなり
○雜產倒產のをの先をとあくつをと治をに
古法ゆ小針と絹帛をうをこれをいをう乃脚ゆる
刺をうをこを刺法ゆ洗と用刺をるゆを塗ををれて
ら附ゆ吹せしく母みをゆをくをみをう乃脚ゆる
法とあり流田をうをてこれを撥羊ゆ母乃股乃をゆ
法と產をしるをしゆ中指をゆ渴產乃つ臺
とをらをて吹乃脚ゆをぬれをこれをら吹せをとを
吹乃脚ゆをそを文乃名を書をこれを脚吹せゆ
撥生法產と治をゆ車前ゆ細末をうて酒ゆ
て二錢ゆをこれをゆ產下をを毛治ゆ苦甘

と揉て産綱と称くとはこれなり又乃法術とも
女科準繩にのせてあり
○王字祭の法は右横生倒産偏産碓産の混揚
子建の法はもろこし稲妻みくりの産門のよりと
ものこと〻くこれ書生人特良ものあるとなんと
なほ〻みれとものくくはこれいまのしてて
人のいのちを救せん按ところの例産は今世生とその
例なるものをこゝにのせて産下ものよの
並のうちのうれしるしまのそのこと
ろくのもしも是と推のゞせ御法のとれ
塩とぬつと字とものこゝろの法のよりして可なり又

碓産は肚帯児乃部位と渡ものうの児乃から
あく産門乃外のあるの書生人ものと産つのかし
を肚帯と撥して児乃部位ものくろにたくつく
これとかくくの肚帯児乃部とまくひ亟しく
児と胞衣と自然のあるみくくのものあるこれ
さあるけるしくれ碓産乃法のまくひくこと
るまの産門のもとかして内と横ものくの産後
のあるの法胞損しく小後淋漓しく小後石横乃法
とせくのあるのとくの法のくさの
○陳自明乃法の産妙方のく體熱しく或ものを
しく舌乃瘀くろく或はあるく治の法のあるの

お腹中より死と成たりとて薛己の保生流
産方の産後の胎内に留り候ものハ産婦
ものハ産婦死候ものの方より推て
多き事なるものの方より推て
つくしく考てあるものの産婦
死と成り候ものとくくれ死あること
まれなるものとて下もの術をもつて
ゆるぬつくるべく
一酢自服の説より薛婦面あるく舌あるとくあれと
母ハ活るハ死とるるの脣口腹痛と成
ものハ母をもて死と成るく面ち舌あるとく痛ちるの

ちるるハ母死してお活るるるとて薛己の
活る儿産婦の面あるとものハ産後
ものハ母活るの候なり青色ハ胎脉の
絡絡ちるるとよ死ちるの候ちるの産婦唇口
ともう青色するハ産後の産絡と成るるの母ものの
痛と成ものハ胎内の産絡ちるくなるの母ものの
死ちるるの産婦面と舌と唇ちる色痛と成
ものいとれ産婦の産絡して脇産後と
ちるの候なり故の母死産ものの産絡
も母ちるの活ちるく若ものと産ちして
活とちるるくくこれちるくこれ古の醫をハ
今これとちるひちるよんあくハ

そうこのみ〜うるそそひりくすと醫師
も病家もうく知さしめ〜もそ癒されころく
おてろこ治療をしてつさらく
○女科準繩この產孩の腹中に死るものたれも
く〜繁多なるこのりいまこ河南ちかよ
生産し　或ハ產始終ことと弱ちして難產とも
胞衣としてこもつれりり血ようて脫とやしうすの
たく〜拔圓〜て見えとうたすり產婦の去とら
ろ〜てこれともく治さちり大法をるるの
難とこれとめぐ〜ひて難ちものハ多とハト
とて〜嫁たるものハ清とうるはこし產こ

うるものハ毒素とふとこと〜こうハ山病の遇く
よりの醫師よりゆこ移く治療をこ〜もこ〜醫
師乃素と三貼ハ用てもるこ〜ときハ父婦乃醫
師の藥ていさるり元ものるこ〜ハ素せす
こうのお藥ものるれて三貼ハ用ていりてサ
もお藥乃ものるこ〜ハ醫師とりのつこ
ハ紅花もつるり附ハ毒素とふりとこ〜とあれて醫
師のようびりこ〜ハ附ハ種こ乃毒素とも用こ
るりお藥〜て服ていて毒ろ乃煙のりてく
乃醫せの元服とて〜こ法とりせる　るもし
されこ〜れ産ものるり毒素るれて中醫乃そそひハ

これとあや婦こて用ゆく病毒こと年日を毒
ひとをつかれるゆとをつかれるゆとをつかれ
うけ乃茶をとをつく長治後ゆ乃と絶てをつくさ
ゆうをつかう烏金散一字神効蛇脳散蟬退散
稀くつ乃茶煎これ婦人こと方女科雑繩おゆ義こう
○産婦脇脇中ゆ痛して手ゆ指尻乃中わとをつ去
わとをつ第中厚乃臭をつかるものゆ平胃散二服酒
水各半盞を入煎して温服されて水腫乃末
二錢とへくゆをつかひ煎しあくめくこれと脇ともを
脇をれをつかるゆ方ゆをつかう山方をつめ
外をつるゆとをつかう茶うて産婦ゆ室をつかへゆ

をつかるゆ
○婦人良方ゆ産婦腫ゆ乃をんく第一槍腫と名て
白蜜一匙とをつらひ湯ゆて脇ごとくそらをつかるゆ
しくをつう
○婦人良方ゆ産婦腫ゆ除んく水湯して水と飲ん
と那せとそ茶煎をつかう山方乃をつ茶を湯と
わをつて使なうくをつうれをつかるとをつて冷水ゆ
をつかわをつへをつ白濁帯して紅青しをつるく
○婦人良方ゆ産婦腫ゆ乃をんく饑をつるゆ乃
く稠粥軟白粥乃類と食をつしくをつ湯と煮く
ゆをつうとをつうくをつるゆ乃をれ便秘糞乃をつひ

の清化しかさきはと食とをうけ産の時ちう
と用うるの志ふかくして脾虚して清薬をうこ
しあるこころは産後とそこくハ腸食のやまひとゐ
さんとこうの初物の風俗ゐて産の時のかよくま
うく食とそこめされとあくとひくく堅硬なるは
或ハ冬瓜赤瓜と産婦のあるあるを上焦通せんて
焦めくうけてうれうは難産しるるの雑論
つこうのあり
○塗ふ産婦の説ふ産婦時よりうくく産法の説法
と服せくうれうは温水或ハ温酒のそうひとを服せ
しむ〜〜原水と用ひうは真ハ名をとるうこれハ産婦

と血ひとそひ漏れて腹こわりくれ必ず薬
とするなりこれ本草乃亜麻湯屑乃まとひ
薬と用るなりこれあるいはそこなうる水乃和と
うして用ゐしと或ハ葛しらものハ煎せ乃薬ハ
もと薬し穀米乃羹汁して用ゐしこれ脉
通でさしものハ大麦乃湯してもらひ腹痛と
るものハ黄橘乃羹汁或ハ橘乃赤れ羹汁なくと
用るなりそらひさ湯
らし鮒とひさうるものあし痛症結ものの煎と
とあるくそくくそくそ神薬と用る附ハあくくさ湯る
井水と潔うる茗ようて白沸して澄水しれし

て用ゐるなり
○女科準繩より産婦附ようちんく腰脇腹ようそこ苦つ
らくせ水とるようそうんかくく椅縛りの性ようる法
のくこと附ようくひ薬と用ゐて草ようせ用ゐしみる
ようと用ゐくひ穏婆ようる産門ようもと入ゐる
ひ四ようの戸ようせまるとまち腰ようるおもく脇
腹ひようとうくく腹中数しそんのくく影道
延出し腰腹ようるくし附力と用て踏延し
或ハ習せ乃茶或鳥産乃法ようにようくしり
茶乃そらひと用る附ハるくひ産ようして安易
とるなりお乃信産婦と性草せしめ力ハるれ

老婆とえんて産婦の腰とのこうしひろうりこの
腰といそくよそるのよみたれうるものハ西し穏婆よ
紙こそりねるくひく抱くくしみそりよ腰とよ
引おくうるのみれ婆の醫りみとしさてそうくさ
してびくくくし性草のよりよ循綿のそうひとこ
くくしそ草の附帝ハ産母のくくそ害るもし
泰産の縄よ産母のとうそて紙くしみそりよ
あとのくくうしの服ひひうさてみそりよ方とうる
くうしの神と安静のしてを付とまりくしけてくん
穏婆或僧人やうれ少しあ産とそくカとわくせく
産母とうて婆う送とれて腰巻るのさしのうくく

うくてそれそう三産害場よくしてよ母そやよ安
全なりよくくのれつさくく

婦人妻草巻下終